



赤嶺 奈津江 議員

こども医療費の 現物給付方式導入を

答 早期に導入を検討したい

問 こども医療費を病院や調剤薬局の窓口で支払いをしなくても済む、現物給付方式を導入できないか。

町長 早期に検討したい。病院側と事務的に問題なければすぐにできる方向で進める。

子どもの居場所づくりを問う

問 児童館や放課後子ども教室など環境は整備されている。しかし、学校から遠い地域の子どもたちは自宅近くでの居場所づくりも必要となる。各自治会での居場所づくりができないか。

副町長 子ども・子育て支援事業計画のなかに、地域における居場所確保・充実を図る事業がある。公民館等の地域資源を活用し、小学生の放課後の居場所づくり・遊び場の確保を検討する。地域の協力を得ながら事業展開を検討していく。



サイエンス教室 (本部児童館)

業務委託等の検討は

問 社協への業務委託が多くなるなかで、人員も増加が必要である。社協が使用している事務所は手狭になっている。保健福祉課健康づくり班を本庁舎に戻してはどうか。

副町長 ちむぐくる館は保健センターの機能を有し、町民の健康づくりの拠点である。健康診断から健康相談、健康教育等を同センターで実施し

ている。町民にもちむぐくる館が健康づくりの活動拠点であることが認知されている。健康づくり班を本庁に戻すことは考えていない。

問 定期的に庁舎内の各課の配置等や新たな外部委託などを検討することはあるか。

副町長 部署の新設や各課の配置、外部委託は可能な部分を随時取り組んでいく。

町職員採用条件の見直しを

問 本町の職員採用試験において、社会人経験枠等で年齢条件を撤廃し、即戦力として活用してはどうか。

町長 専門職や特別な人材は、これまでも本町では採用してきている。前向きに進めていきたい。